

学年暦の変遷

名古屋大学通則が定める名大の学年暦は、4月1日に始まって3月31日に終わり、これは新制大学になった1949(昭和24)年度以来変わっていません。ただ、その内容は、さまざまな変遷を経て現在に至っています。

1949年度は、第1学期が4月1日から10月31日、第2学期が11月1日から3月31日とされていました。現在と大きく異なるのは、夏季休業がかなり早く7月1日から8月31日で、第1学期の講義が夏季休業後も続くことと、第2学期の開始日から1週間の「秋季休業」があったことです。春季休業は4月1日から7日とされ、入学式は4月8日が原則でした。また、土曜日が休業日ではなく、午前には講義が行われました。その他の休業日として、5月1日の名古屋大学記念日がありました。

1952年度から、第2学期の開始が10月16日になりました。その後、通則に定める学年暦は全く変わらない状況が40年ほど続き、久しぶりに変更されたのが1993(平成5)年度です。週休2日制の導入により、土

曜日が休業日になりました。翌94年度には、第2学期の開始が現在と同じ10月1日になり、夏季休業は7月24日から9月14日(1995年度以降9月7日)と、時期が遅くなるとともに短縮されました。

そして、名大が国立大学法人になった2004(平成16)年度から、学年暦も大きく改編されて現在のようになりました。最も変わったのは、第1学期の講義が期末試験を含めて夏季休業前に終了するようになったことです。夏季休業は8月8日から9月30日と、さらに遅くなるとともに長くなりましたが、これに伴い秋季休業は廃止されました。その他、春季休業が4月1日から4日、入学式が原則4月5日となりました。また、名古屋大学記念日が休業日ではなくなったのもこの時からです。

2017年度からは、1949年度以来変わっていなかった学期の正式名称を、春学期と秋学期に変更しました。



1 名古屋帝国大学の学生たち。旧制時代(名帝大および旧制名古屋大学)の学年暦は3学期制であった。

- 2 教養部の講義風景(1960年代後半)。教養部は、夏季休業の期間を正規の学年暦よりやや遅く、秋季休業の期間をやや早く設定していた。
- 3 1983年の入学記念写真。第1学期の講義が始まって間もなくの撮影か。なお、第1学期のことを前期と言う呼び方は、通則には明記されていなかった。
- 4 初めて4月5日に挙行された2004年度入学式にて。2004年度から、入学式より前に新入生ガイダンス等を行うようになり、講義の開始が6日になった。ただ、2006年度以降は再び入学式より後に行うようになり、講義の開始も10日前後に戻っている。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学基金のご案内

名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

特定基金

名古屋大学基金の中には、研究推進や人材育成など、支援目的を特定してご寄附いただける事業もご用意しております。



ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office (DO室) まで(電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp) にお問い合わせください。

詳しくはホームページをご覧ください。

アクセスはこちらから

名古屋大学基金

<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/>



人を伸ばす、明日を創る、世界と歩む

